

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071201513		
法人名	株式会社 末広福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーガーデン		
所在地	〒819-0041福岡市西区拾六町1-21-11		
	(電話) 092-883-2223		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 30 日	評価結果確定日	令和 3 年 2 月 8 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

フラワーガーデンでは、2、3階に介護付き有料老人ホームと短期入所施設、1階にデイサービス、グループホームが中庭を囲むように併設しています。開放的な中庭は、季節感を感じながら心豊かに過ごせる様に季節の花々や野菜を育てています。近隣には、保育園や団地があり共同で行事に取り組み楽しんでいます。毎年恒例の夏祭りでは、ボランティアや地域事業者の協力の下、様々出店を用意し、今では、来客数が500人を超える、地域でも大きなお祭りの1つになりました。又、運営理念をモットーに常に、入居者様に寄り添ったケアを心掛け接しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 2 年 12 月 4 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、商業施設が立ち並ぶ、幹線道路から少し入った場所にあり、三方を田園に囲まれた、利便性と自然が両立した環境に位置している。

同一の建物内に、介護付き有料老人ホームやデイサービスがあり、建物に囲まれた中庭には、季節毎に花が咲き、利用者、入居者の憩の場となっている。事業所内にピアノが置かれ、演奏会が行われたり、中学校のブラスバンドが訪れたり、「音楽」に力を入れているのも、事業所の特色の一つである。

勤続年数の長いスタッフが多く、スタッフは、常に「笑顔」で利用者と接することを心掛け、コロナ禍の状況で、自由に外出や地域交流ができない状況であるなか、利用者に「笑顔」になってもらうように、レクリエーションを充実させ、日々の支援に工夫を凝らすなどの取り組みを行っている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に掲示し、職員間で話し合い作成した理念を常に意識し実践している。又、職員会議で理念を皆で読み上げ意識を高めている。	運営理念の中に「地域の貢献のため」という文言が入っており、ミーティングの際には理念を唱和している。事業所理念である「笑顔」は、特に意識し心掛け、職員がまず笑顔で利用者に接することを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや、運営推進会議を開催し地域とのつながりを大切にしている。又、地域の清掃活動など積極的に参加している。	事業所は、自治会に加入し、事業所便りを2か月に1度発行し回覧している。事業所が主催する夏祭りは、地元の住民など総勢600名ほどが参加する行事であり、和太鼓やダンスが行われるステージが設置され、綿菓子やジュース等の露店もでて、年に一度の地域イベントとして、定着していた。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽会やその他の行事（特に夏祭り）は、地域の方に挨拶、案内、声掛けを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、参加の方に現状報告、活動内容など報告している。又、参加頂いた利用者様、ご家族の意見など日々のケアサービス向上に活かせる様努めている。	運営推進会議は2か月に1度開催され、利用者、利用者家族、地域包括支援センター職員、町内会会長が参加していた。また、警察署や消防署、民生委員にも開催の案内をおこない、参加をお願いしていたが、今年に入っては、書面にて活動状況の報告のみとしている。面会制限に関しての意見があり、実際に面会の方法について、意見を取り入れた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご参加頂いた後など、介護上の疑問など相談している。	市町村への主なやりとりは、メールで行うことが多く、実際に手続きが必要な際は、窓口へ出向いている。市町村からは、研修等の案内が随時送られてくる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修や委員会会議などで話し合い確認している。身体拘束は、もちろんスピーチロック等の勉強会を開き身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	以前、外出傾向の強い利用者がいた時は、施錠をしない取り組みを行っていた。しかし、家族からの要望があり、また玄関に十分な見守りが行き届かない建物構造のため、家族に対し、施錠することの弊害の説明を行った後、同意書を取って、終日、施錠するようになった。	施錠しない時間帯を作るなどして、利用者が抑圧感がなく、自由な暮らしを支援するための工夫を今後も期待したい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外研修に参加し職員会議の場でも話し合い、確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外研修やマニュアル等を使用し会議の場で勉強会を行っている。	権利擁護に関する、成年後見制度や日常生活自立支援事業についての資料を準備し、家族が来訪した際に、必要時に説明している。 制度に関する研修は、法人にて行われ、事業所から法人研修に参加した場合は、事業所内で伝達を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に不安や疑問点がない様十分に時間をかけて説明している。利用料の変更などあった場合、変更の内容を説明し同意書の取り交わしを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や運営推進会議での意見交換又、来館時に会話の中での意見や要望など、その都度対応し、改善策を考えてる。	利用者、家族の意見、要望としては、外出に関することや、食べ物に関することが多く。利用者が食べたいものがあれば、要望を聞いて家族にもってきてもらったり、家族からのお土産や差し入れを受け取ったりし、要望にできる限り沿えるようにしている。重度化しても、一概に食べたいものを制限するのではなく、嚥下能力にあった食べ物を準備したり、家族に持参してもらったりしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に自分の意見や要望などを言えるように雰囲気作りに努め、改善、反映出来る様に心掛ける。	日常やミーティングででた職員の意見は、実際に取り入れられ、レクリエーションでカラオケ大会をしたり、着物を着て写真撮影をしたり、日常の利用者の様子を写真にとり、DVDムービーにして家族にプレゼントしたりと、利用者を楽しませるための取り組みが実践されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに職員は、自己目標の設定、自己評価を行い、管理者は、人事考課で評価し心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	学歴、経験、年齢など重視せず、福祉に対する思いや思いやり、本人のやる気を重視している。	事業所には30才代から70才代までの職員が勤務しており、性別も偏っていない。定年年齢は設定されているが、契約更新が可能である。土日、祝日の勤務や、時間的な勤務の相談が可能であり、職員のライフサイクルに合わせた働き方ができるため、勤続年数が長い職員が多い。また同法人内での異動によりキャリアアップの実現も可能である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や研修で定期的に話し合いをし、職員間でも、その都度、気づいた事は、注意しあい改善している。	人権に関する研修が、法人の年間研修計画に組み込まれており、事業所から参加した職員は、事業所内で伝達研修を行っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、外部研修にいつでも受けられる体制を確保している。又、教育担当者を設置しその人の力量にあった指導を心掛けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や懇談会など積極的に参加し、交流を深い情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、性格、趣味など把握し又、日々の様子観察を行い、安心して過ごして頂ける様に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対して日頃から笑顔で話しやすい環境づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の要望に対応できるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事は、維持できるように支援し、一緒に生活活動を取り組めるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来接苑されたり、電話などの会話、家族への手紙などを通して、状況を把握して頂き共に支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、外出、外泊でき面会時間も制限しないで場所や関係が途切れないように努めている。又、必要であれば、同行も検討している。	利用者は、地元、西区や早良区の住民が多く、近所の方が面会にくることがある。また手紙や電話のやり取りが継続できるように、職員が支援することがある。また地域の公民館のふれあいサロンへの参加を継続したいといった、本人、家族からの希望があり、事業所利用後も、サロンへの参加が継続できるように家族と共に支援した。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が会話しレクを楽しんで頂けるように声掛けや支援4に努めている。又、意思疎通が困難4なH方でも声掛けやスキンシップを行い、その場の雰囲気を楽しんで頂ける様に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	提起的に連絡を取ったり、法事等にも出席している。いつでも何かありましたら相談して下さいという姿勢をもって接している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当ケアスタッフを決め希望や要望を聞いて全スタッフが把握し又、家族の意見も取り入れ対応できるようにしている。	フラワーガーデンでは入所希望者について、1泊2日程度の体験利用を実施している。体験利用の中で聴き取った利用者や家族の思いや意向、また関わりの中で判った事等が入所後の支援の基本となっている。入所後の関わりの中で新たに判った事等は伝達ノートやパソコンに記録され、職員間で周知されている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にいたるまでの生活歴の聞き取りに時間をかけセンタ方式などを活用し全職員が把握できるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレットによる記録閲覧や申し送りノートなどで把握し共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様からの意見や要望の配慮し、カンファレンスを行い意見や要望が取り組まれるように工夫している。	ケアプラン作成、変更については、担当職員からのモニタリング、本人や家族の思いや意向についての情報、PTからの情報と評価、かかりつけ医からの医療情報や助言が計画作成担当者に集められる。計画作成担当者はそれらの情報を整理し、ケアカンファレンスで話し合い、家族の同意を得て次期ケアプランが作成されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録(気づきシート、伝達ノート、ケア記録)や申し送り、会議での意見の話し合いなど情報共有を常に行い、日々の介護に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の希望や要望に合わせ、通院や外出、外泊などの支援等も行っている。併設の事業施設との連携により機能訓練などの多様化してサービス等の提供に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力により避難訓練を行い、地域の方や隣接した保育園児との交流、中学生の職場体験などを受け入れ、理解や協力を得られる様にしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の意向を重視し、入居時に選択できるようにしている。月二回の定期往診、体調不良の臨時往診などで、主治医・ご家族・職員と連絡を密にしている。	ホームには近在医療機関の宣伝用パンフレット類が用意されている。それらに目を通されたご家族からの質問に答えたり説明したりしながら、利用者の入所後のかかりつけ医の選択が適切になされるよう手助けしている。契約時に緊急時の連絡先・順位、また搬送先について確認しているが、その後も随時確認している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	端末での申し送りや伝達ノート、口頭、個人の医療記録ファイル等で、情報の共有、異常の早期発見に努め必要な時は、他の部署の看護師にも協力を依頼している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に職員が交代でお見舞いに行き状態を把握できるよう入院先との情報交換を行っている。また、退院前には可能な限り家を含め、医師からの説明を受ける様にし、受け入れ準備を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議にて入居者様の問題点やご家族の意向を考慮しながら、対応策を話し合い、ご家族様の意向をその都度確認しながら、医師・訪問看護師との連携を図っている。	入所時に、ホームでの終末期の取り組み体制・姿勢について「看取り指針」に基づいて丁寧に説明されている。看取りの段階へ進むと、協力医が状況の変化に応じて家族に現状と今後について説明し、その都度ご家族の意思を確認している。看取り期間中、家族は希望すれば利用者自室に泊まることも出来る。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を職員全員が定期的に受講している。また、施設へ消防より講師を招いて講習会を開いている。緊急時のマニュアルを作成し、いつでも実践出来るように勉強会をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年に2回避難訓練・呼集訓練を実施している。	ハザードマップ上は水害の危険区域になっているので備蓄品は2階と3階に、整備・保管されている。現在、被災中に法人内各事業所で使用することになる介護用品・日用品・食料品・衣料品をまとめた災害キットの整備が進められている。市や地域のケアマネジャーから、避難受入れについて相談を受ける事もある。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個人の生活リズムを尊重し理解し対応している。また、個人情報保護法を厳守して安心して過ごして頂けるように配慮している。	食事・入浴・排泄といった基本的介護についてはホームの日課を消化するのではなく、利用者個々の生活リズムを尊重する視点に立った介護がなされている。フロア内には利用者個人に関わる文書類は置かれていない。職員はタブレットに記録し、タブレットから利用者個々の情報を得ている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人に合わせた日常生活を過ごして頂ける様に声掛け、働きかけを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の希望に少しでも添える様に、生活リズム、レクなどの支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個人に合わせた服装や本人の希望や好みを重視している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員また利用者様同士で楽しく会話をしながら準備をしたり、美味しく楽しく食事をして頂ける様に務めている。	フラワーガーデンには調理師が配置されており、フロアに面した厨房で3食調理している。食事形態については幅広く対応できている。治療食やアレルギー対応はもとより、個々の好みに対しても極めて柔軟に対応している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分チェック表等にて摂取量の把握に努めている。食事がバランスよく摂取できるように、形態の工夫や提供時間の工夫など一人一人に合わせて支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前後、口腔ケアを行い入居者様あった用具を使用している。又、口腔衛生管理指導にて医師に助言や指導等連携を取り口腔機能の低下防止に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄のリズムを把握しさりげない声掛けでトイレへお連れし、失敗ないように見守りや声かけを行っている。本人様がスムーズに排泄できる方法などを職員で話あっている。	職員は利用者個々の排泄状況を確認して、声かけしたりトイレ誘導したりしている。トイレ内の照明はセンサーで作動する。トイレが使用中かどうかはドア上部隅の3cmほどの小窓から漏れる明かりの有無で知られる。夜間も廊下天井の照明が点って、足下まで明るいため、利用者は安心してトイレに行くことができる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェックシートにて水分量、食事量等を把握し日中は、日々の運動に腸活運動等取り入れたり、排便コントロールの把握に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日等は、固定せず、その日の体調に合わせて、個別に入浴しやすい環境を提供している。	入浴の用意は毎日なされているので、利用者に合わせた入浴が提供されている。脱衣場にはエアコンがあり、季節に合わせて脱衣場の温度調節ができる。利用者に合わせて、高さや形状の異なる椅子を用意するなど、全員がそれぞれの身体状況に合わせて入浴が出来るよう個別に対応している。ホームの設備では対応困難な場合には設備の整った、法人内事業所の浴室が利用できる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせ、離床や臥床を支援している。また、昼夜逆転や不眠を解消するため、日中は、活動的にすごして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情を管理し把握している。不明な点等は、かかりつけ薬局の薬剤師に相談し確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や能力に合わせた、役割やお手伝いを提供し、達成感を感じていただけるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた、ドライブレクやイベントを企画している。特に、家族会や夏祭りは、地域の方々との交流を入居者様、ご家族様も楽しみにされている。	ホーム周辺を巡る川に添って遊歩道が整備されており、コロナ禍の現在も利用者の体調に合わせて散歩を楽しんでいる。例年であれば利用者の要望に応じて季節の花々や海を眺めに出かけていた。外出行事の際は、法人内事業所からの応援もある。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望や力に合わせ買物レクや訪問販売の利用をして頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が難しい時期など、手紙や電話など常に連絡できる様に支援している。又、電話や手紙が難しい入居者へは、代出筆や代弁にてお知らせしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、色彩を見やすい色合いにし、落ち着いて過ごせるように努めている。居間からは、中庭が一望でき、開放感ある暮らしを提供している。	玄関からフロアに入る扉は、すりガラスの障子風の引き戸になっている。フロア内の床は木造り、居室の戸も木造りでフロア内全体が茶色を基調とした落ち着いた雰囲気となっている。玄関が広く、フロアに入っても廊下が広いので建物全体がゆったりとしている。共有スペースは中庭に面しており、四季折々の変化をフロアからも、中庭に出ても楽しむことができる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースは、入居様がくつろげる様にソファやTV等設置している。又、照明等も、落ち着いた色合いにしている。食事時は、音楽をかけ食事に集中できる環境づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人様やご家族様の希望や要望にて、ご家族の写真や思い出の品など飾り、居心地よく過ごせるように支援している。	ドアは広い引き戸になっているので、車椅子の出入り、ベッドの出し入れも支障なく安全に行える。各居室にはベッド、エアコン、衣装たんす、小物整理たんすが用意されている。各居室には家具等が思い思いに持ち込まれており、住む人の暮らしを感じることが出来る。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた居室内の配置、安全にも工夫している。出来ること、わかる事、したいことを活かして自立した生活が送れる様に細かな変更も行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所内に掲示し、職員間で話し合い作成した理念を常に意識し実践している。又、職員会議で理念を皆で読み上げ意識を高めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや、運営推進会議を開催し地域とのつながりを大切にしている。又、地域の清掃活動など積極的に参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽会やその他の行事（特に夏祭り）は、地域の方に挨拶、案内、声掛けを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、参加の方に現状報告、活動内容など報告している。又、参加頂いた利用者様、ご家族の意見など日々のケアサービス向上に活かせる様努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にご参加頂いた後など、介護上の疑問など相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修や委員会会議などで話し合い確認している。身体拘束は、もちろんスピーチロック等の勉強会を開き身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	内外研修に参加し職員会議の場でも話し合い、確認している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外研修やマニュアル等を使用し会議の場で勉強会を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に不安や疑問点がない様十分に時間をかけて説明している。利用料の変更などあった場合、変更の内容を説明し同意書の取り交わしを行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や運営推進会議での意見交換又、来館時に会話の中での意見や要望など、その都度対応し、改善策を考えてる。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に自分の意見や要望などを言えるように雰囲気作りに努め、改善、反映出来る様に心掛けている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度ごとに職員は、自己目標の設定、自己評価を行い、管理者は、人事考課で評価し心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	学歴、経験、年齢など重視せず、福祉に対する思いや思いやり、本人のやる気を重視している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	会議や研修で定期的に話し合いをし、職員間でも、その都度、気づいた事は、注意しあい改善している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が、外部研修にいつでも受けられる体制を確保している。又、教育担当者を設置しその人の力量にあった指導を心掛けている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や懇談会など積極的に参加し、交流を深め情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、性格、趣味など把握し又、日々の様子観察を行い、安心して過ごして頂ける様に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対して日頃から笑顔で話しやすい環境づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の要望に対応できるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来る事は、維持できるように支援し、一緒に生活活動を取り組めるように努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来接苑されたり、電話などの会話、家族への手紙などを通して、状況を把握して頂き共に支えていく関係を築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、外出、外泊でき面会時間も制限しないで場所や関係が途切れないように努めている。又、必要であれば、同行も検討している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が会話しレクを楽しんで頂けるように声掛けや支援4に努めている。又、意思疎通が困難なH方でも声掛けやスキンシップを行い、その場の雰囲気を楽しんで頂ける様に努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	提起的に連絡を取ったり、法事等にも出席している。いつでも何かありましたら相談して下さいという姿勢をもって接している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当ケアスタッフを決め希望や要望を聞いて全スタッフが把握し又、家族の意見も取り入れ対応できるようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にいたるまでの生活歴の聞き取りに時間をかけセンタ方式などを活用し全職員が把握できるようにしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	タブレットによる記録閲覧や申し送りノートなどで把握し共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様からの意見や要望の配慮し、カンファレンスを行い意見や要望が取り組まれるように工夫している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録(気づきシート、伝達ノート、ケア記録)や申し送り、会議での意見の話し合いなど情報共有を常に行い、日々の介護に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族の希望や要望に合わせ、通院や外出、外泊などの支援等も行っている。併設の事業施設との連携により機能訓練などの多様化してサービス等の提供に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署の協力により避難訓練を行い、地域の方や隣接した保育園児との交流、中学生の職場体験などを受け入れ、理解や協力を得られる様にしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様、ご家族様の意向を重視し、入居時に選択できるようにしている。月二回の定期往診、体調不良の臨時往診などで、主治医・ご家族・職員と連絡を密にしている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	端末での申し送りや伝達ノート、口頭、個人の医療記録ファイル等で、情報の共有、異常の早期発見に努め必要な時は、他の部署の看護師にも協力を依頼している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に職員が交代でお見舞いに行き状態を把握できるよう入院先との情報交換を行っている。また、退院前には可能な限り家を含め、医師からの説明を受ける様にし、受け入れ準備を整えている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	会議にて入居者様の問題点やご家族の意向を考慮しながら、対応策を話し合い、ご家族様の意向をその都度確認しながら、医師・訪問看護師との連携を図っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を職員全員が定期的に受講している。また、施設へ消防より講師を招いて講習会を開いている。緊急時のマニュアルを作成し、いつでも実践出来るように勉強会をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、年に2回避難訓練・呼集訓練を実施している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個人の生活リズムを尊重し理解し対応している。また、個人情報保護法を厳守して安心して過ごして頂けるように配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人に合わせた日常生活を過ごして頂ける様に声掛け、働きかけを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の希望に少しでも添える様に、生活リズム、レクなどの支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様個人に合わせた服装や本人の希望や好みを重視している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員また利用者様同士で楽しく会話をしながら準備をしたり、美味しく楽しく食事をして頂ける様に務めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分チェック表等にて摂取量の把握に努めている。食事がバランスよく摂取できるように、形態の工夫や提供時間の工夫など一人一人に合わせて支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前後、口腔ケアを行い入居者様あった用具を使用している。又、口腔衛生管理指導にて医師に助言や指導等連携を取り口腔機能の低下防止に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄のリズムを把握しさりげない声掛けでトイレへお連れし、失敗ないように見守りや声かけを行っている。本人様がスムーズに排泄できる方法などを職員で話あっている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェックシートにて水分量、食事量等を把握し日中は、日々の運動に腸活運動等取り入れたり、排便コントロールの把握に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日等は、固定せず、その日の体調に合わせて、個別に入浴しやすい環境を提供している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせ、離床や臥床を支援している。また、昼夜逆転や不眠を解消するため、日中は、活動的にすごして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情を管理し把握している。不明な点等は、かかりつけ薬局の薬剤師に相談し確認している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や能力に合わせた、役割やお手伝いを提供し、達成感を感じていただけるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせた、ドライブレクやイベントを企画している。特に、家族会や夏祭りは、地域の方々との交流を入居者様、ご家族様も楽しみにされている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望や力に合わせ買物レクや訪問販売の利用をして頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が難しい時期など、手紙や電話など常に連絡できる様に支援している。又、電話や手紙が難しい入居者へは、代出筆や代弁にてお知らせしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、色彩を見やすい色合いにし、落ち着いて過ごせるように努めている。居間からは、中庭が一望でき、開放感ある暮らしを提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のスペースは、入居者様がくつろげる様にソファやTV等設置している。又、照明等も、落ち着いた色合いにしている。食事時は、音楽をかけ食事に集中できる環境づくりに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人様やご家族様の希望や要望にて、ご家族の写真や思い出の品など飾り、居心地よく過ごせるように支援している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせた居室内の配置、安全にも工夫している。出来ること、わかる事、したいことを活かして自立した生活が送れる様に細かな変更も行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		